



XenClient Enterprise Engine Windows インストーラー

バージョン 5.0

2013/08/12

目次

このガイドについて	3
Engine Windowsインストーラーについて.....	3
重要な注意事項.....	4
Windows Engineインストーラーの使用	4
ウィザードを使ったEngineのインストール	4
コマンドラインを使用したインストール.....	14

Copyright © 2013 Citrix All Rights Reserved.

バージョン : 2.1

Citrix, Inc.

851 West Cypress Creek Road

Fort Lauderdale, FL 33309

United States of America

このドキュメントは現状有姿のまま提供されます。Citrix Inc.は、このドキュメントの内容に関し、商品性および特定目的適合性についての黙示保証を含むが、それに限定することなく、いかなる保証も行わないものとします。このドキュメントには、技術的またはその他の観点で不正確な記述、あるいは印字エラーが含まれている可能性があります。Citrix Inc.は、このドキュメントに含まれている情報を予告なく随時変更する権利を留保します。このドキュメントおよびこのドキュメントに記載されているソフトウェアは、Citrix, Inc.およびそのライセンス付与者の機密情報であり、Citrix, Inc.によるライセンス許諾に基づいて提供されます。

Citrix Systems, Inc.、Citrix ロゴ、Citrix XenClient は、米国およびその他の国における Citrix Systems, Inc.の商標です。このドキュメントに記載されているその他のすべての製品またはサービスは、該当する各社の商標または登録商標です。

Citrix Systems, Inc.は、このドキュメントで使用されているすべての商標を承認しています。Linux は Linus Torvalds の登録商標で、Ubuntu は Canonical Ltd.の登録商標です。Windows は Microsoft Corporation の登録商標です。すべての商標は、該当する各社の財産です。

このガイドについて

このドキュメントでは、XenClient Engine Windows インストーラーの実装について説明します。ここで説明するインストール方法により、Engine をコンピューターにインストールします。

Engine Windows インストーラーについて

Engine Windows インストーラーを使用すると、既存の Windows XP または Windows 7 システムから XenClient インストールをセットアップできます。このインストーラーでは、次の 2 つのオプションを使用できます。

- 自動的にインストールプロセスをガイドするウィザード
- Engine をインストールするコマンドを呼び出すことができるコマンドライン

 Engine のインストール時に使用できるほかのオプションについては、『XenClient Enterprise Engine インストールガイド』を参照してください。

Engine Windows インストーラーによるインストールは、次の 2 段階に分かれています。

- 第 1 段階 — インストールウィザードのガイドによって、Engine をシステムにインストールするための準備を行うプロセス。このプロセスが完了すると、システムが再起動し、インストーラーの第 2 段階が開始されます。
- 第 2 段階 — この段階では、インストーラーがハードドライブの Windows パーティションを縮小するために必要なすべての作業を実行して Engine をインストールできます。Windows を完全に削除することを選択した場合は、ディスクがワイプされ、何も無い状態からフルインストールされます。

 インストールの第 2 段階は自動化されているため、いったん開始すると停止することはできません。

Engine Windows インストーラーの実行中は、次のことが行われます。

- Windows — 各種のシステムファイルをインストールします。指定されている場合は、HTTP URL パスを設定するか、ローカル PC へのダウンロードを指定して、ダウンロード先の場所を参照し、インストール ISO をインストールできます。ダウンロードが完了すると、インストーラーにより Windows ブートローダーに Engine Windows インストーラーを実行するためのパッチが適用されます。
- Linux — NTFS パーティションを縮小し、XenClient Enterprise パーティションを作成します。オプションとして、リカバリパーティションを作成し、Engine をインストールして構成し、Engine の起動メニューをインストールします。

 Engine Windows インストーラーを使用するには、Microsoft Windows インストーラーと最新の Engine ISO が必要です。最新バージョンを入手するには、Citrix 社の [Web サイト](#) にアクセスしてください。

重要な注意事項

インストーラーを使用するときは、次の重要な制限事項を考慮してください。

- Engine Windows インストーラーを実行すると、システムディスクが完全に変更されます。Windows パーティションが縮小されて、インストールするためのスペースが確保されます。データ損失の可能性を防止するために、**Engine インストーラーを開始する前に必ずハードドライブ全体のバックアップイメージを作成してください。**
- インストーラーが Windows に使用するディスクスペースを元に戻す方法は、手動でディスクに再度パーティションを作成する以外にありません。
- 元の構成に戻す必要があるマシンでこの作業を実行する場合は、必ずイメージをバックアップしてください。システムイメージが必要な場合があります。
- インストールの実行時は、必ず A/C 電源を使用し、インストーラーの実行中は PC の電源を切らないようにしてください。途中で電源を切ると、システムが破損する可能性があります。
- インストールの所要時間は、ディスクのサイズやディスクパーティションの使用率によって異なりますが、プロセス全体が完了するまで最大で 20 分かかります。
- ほとんどのハードディスクは、作成できる物理パーティションの数が 4 つに制限されています。Engine をインストールするには、空のパーティションが少なくとも 1 つ必要です。Engine とリカバリパーティションをインストールするには、空のパーティションが少なくとも 2 つ必要です。使用可能なディスクパーティションの数を確認するには、Windows のディスクマネージャーを参照してください。
- インストーラーでは、使用するスペースの容量を確認できません。インストール時には、使用可能なディスクスペースの 90% がインストールされる Engine によって消費されることがあります。



Windows ドライブに十分なディスクスペースがあることを確認してください。NTFS パーティションの約 90% がインストールに使用されます。Windows の空きスペースは、Windows インストーラーが縮小できるスペースの容量と正確に一致しません。

Windows Engine インストーラーの使用

インストーラーは、次の 2 つの方法で起動できます。

- インストーラーの実行可能ファイルをクリックして、インストーラーウィザードを使用
- 各種のオプションを付加できるコマンドラインを使用したカスタム手順

ウィザードを使った Engine のインストール

ウィザードを使用して Engine をインストールするには、次の手順に従います。

1. インストーラーファイルを見つけて、ファイルをダブルクリックし、ウィザードを起動します。

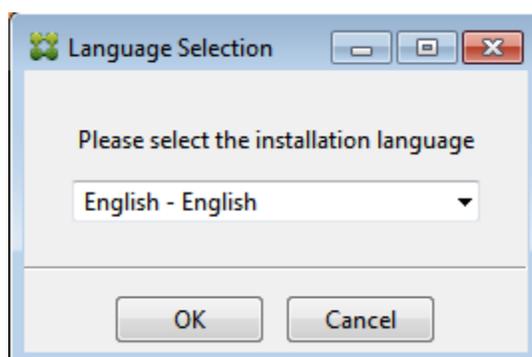


次のユーザーアカウントコントロールメッセージが表示されます。「次のプログラムにこのコンピューターへの変更を許可しますか?」【はい】（または【OK】）をクリックしてコンピューターに対する変更を受け入れます。

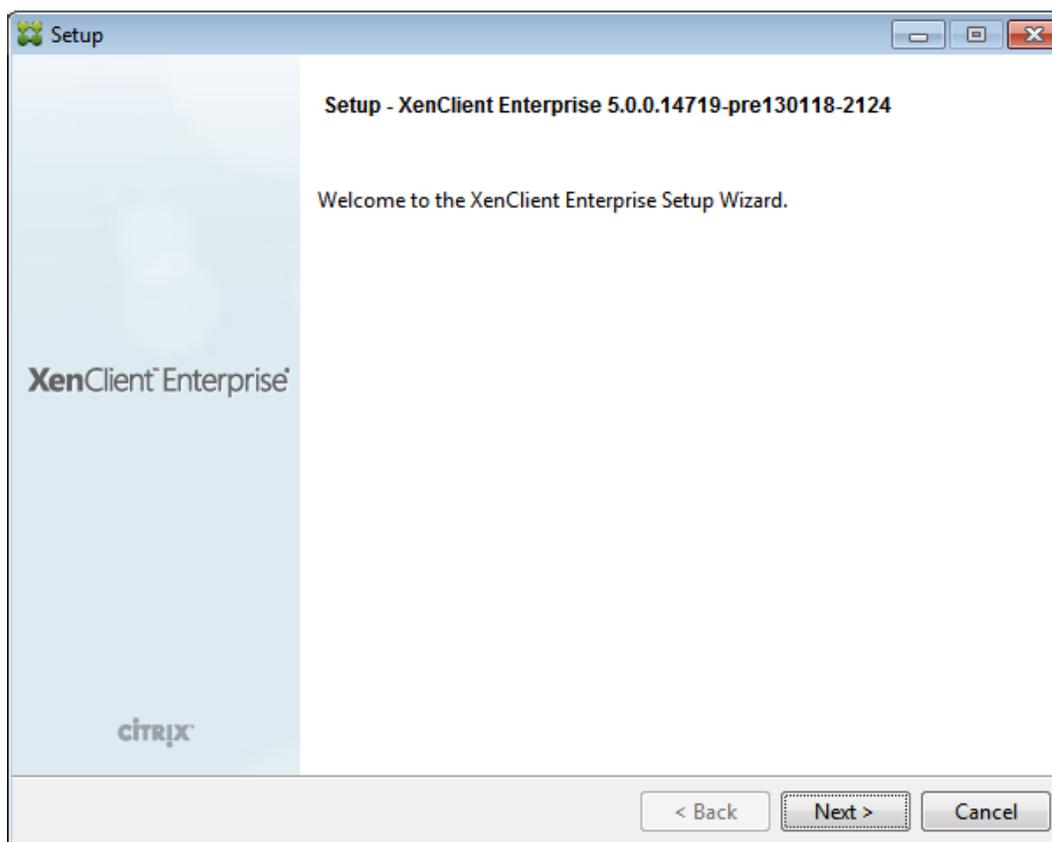
ウィザードの splash スクリーンが開きます。



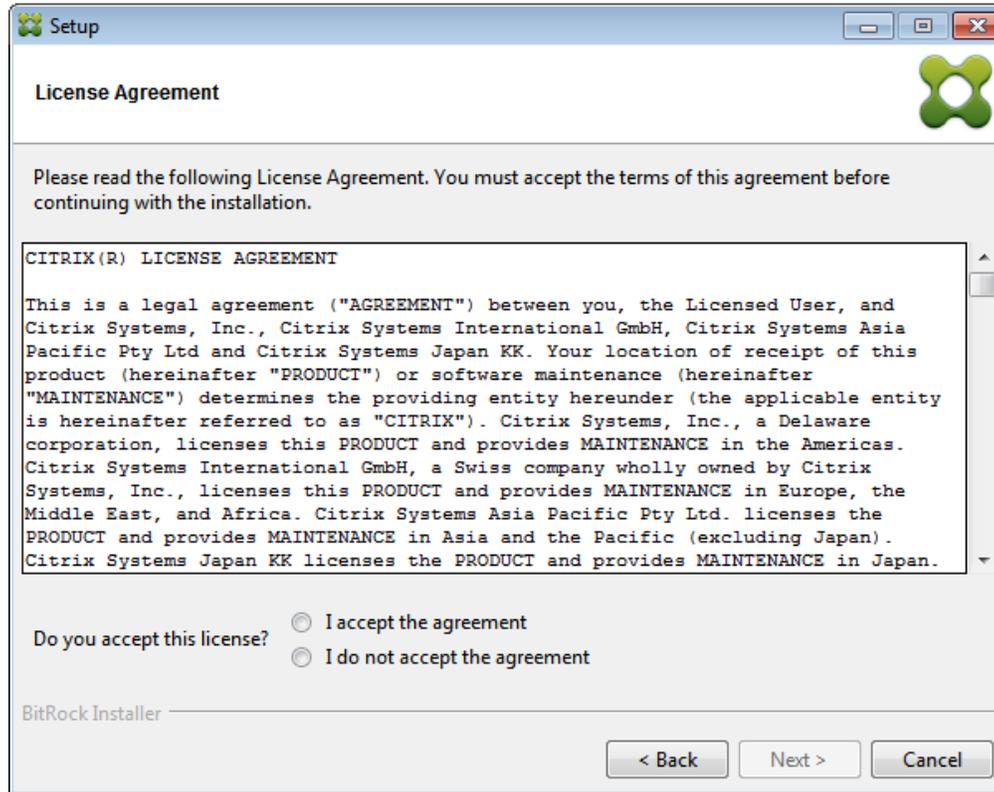
2. ドロップダウンの一覧から適切なインストールで使用する言語を選択し、**[OK]** をクリックします。



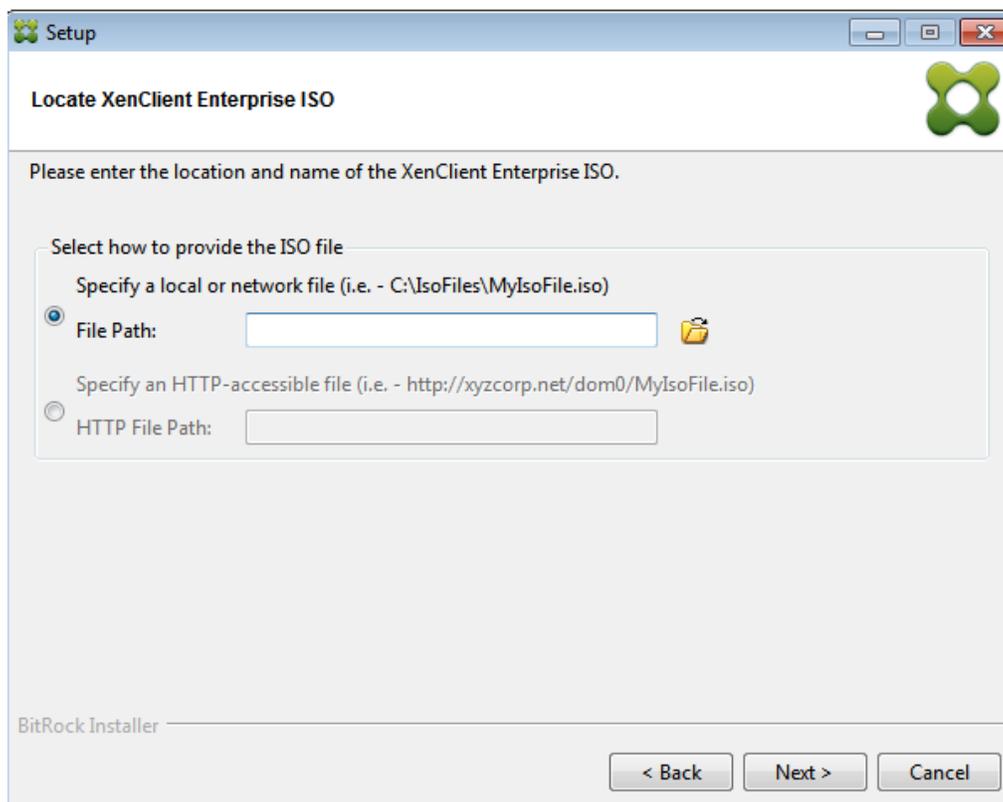
3. 言語を選択した後で、**[ようこそ]** 画面が開きます。**[次へ]** をクリックします。



4. [ユーザーライセンス契約] 画面で [ライセンス契約に同意する] をクリックし [次へ] をクリックします。



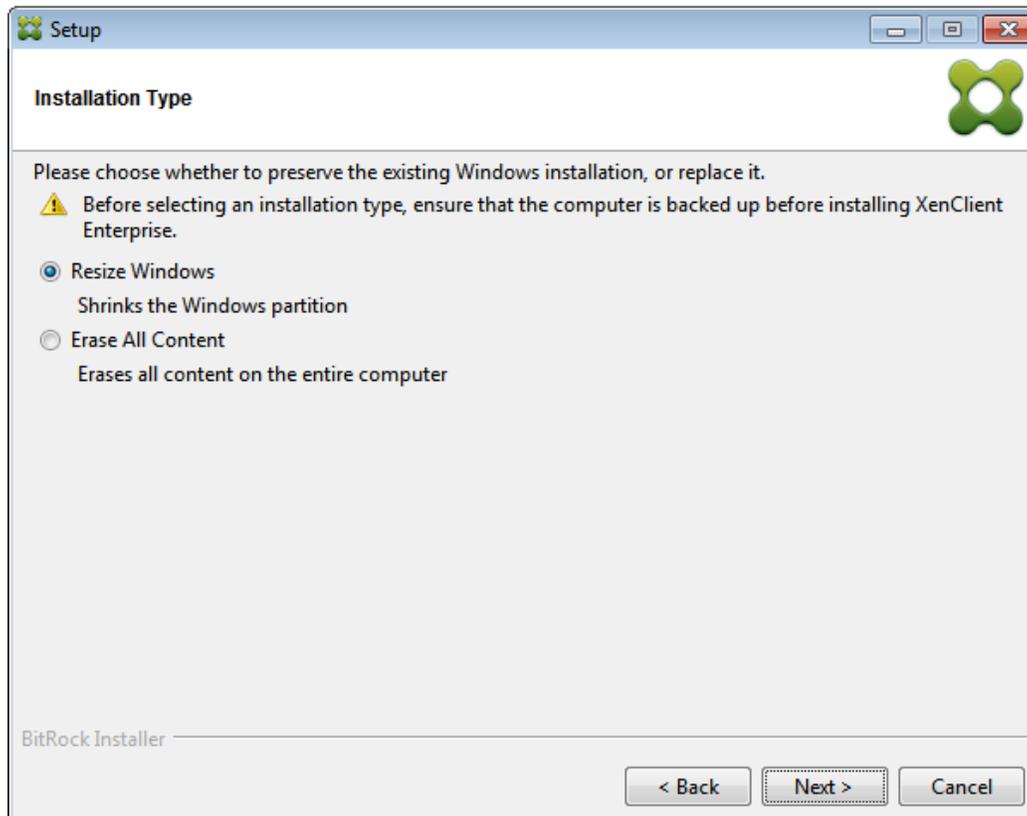
5. [次へ] をクリックします。[XenClient Enterprise ISO の指定] 画面が表示されます。



6. **【XenClient Enterprise ISO の指定】** 画面で、インストール ISO ファイルの場所を入力します。ファイルパスを使用してローカルコンピューターのディレクトリを参照するか、HTTP ファイルパスを使用して URL を指定します。

 ISO ファイルの整合性を確認するために、MD5 チェックサムが提供されます。ISO ファイルをダウンロードするときは、必ずチェックサムファイルもコピーして、ISO ファイルと同じローカルパス（ディレクトリ）に保存してください。チェックサムファイルは必須ではありませんが、インストールされていない場合、ウィザードによって警告メッセージが表示されることがあります。

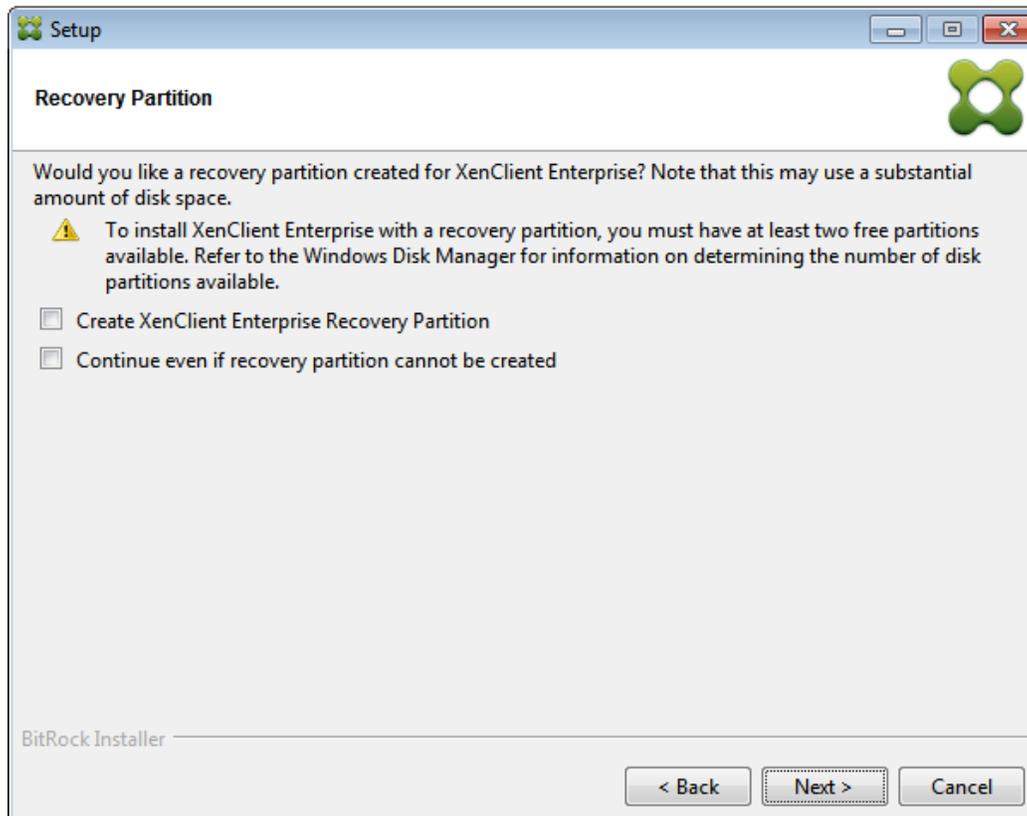
7. **【次へ】** をクリックします。インストールの種類を選択するための画面が表示されます。



8. インストールの種類を選択するための画面で、適切な種類を選択します。
 - **【Windows のサイズ変更】** — Windows パーティションを縮小します。縮小されたパーティションは、現在のサイズの約 10% のサイズになります。
 - **【すべての内容の消去】** — ハードドライブ全体からすべての内容を消去します。

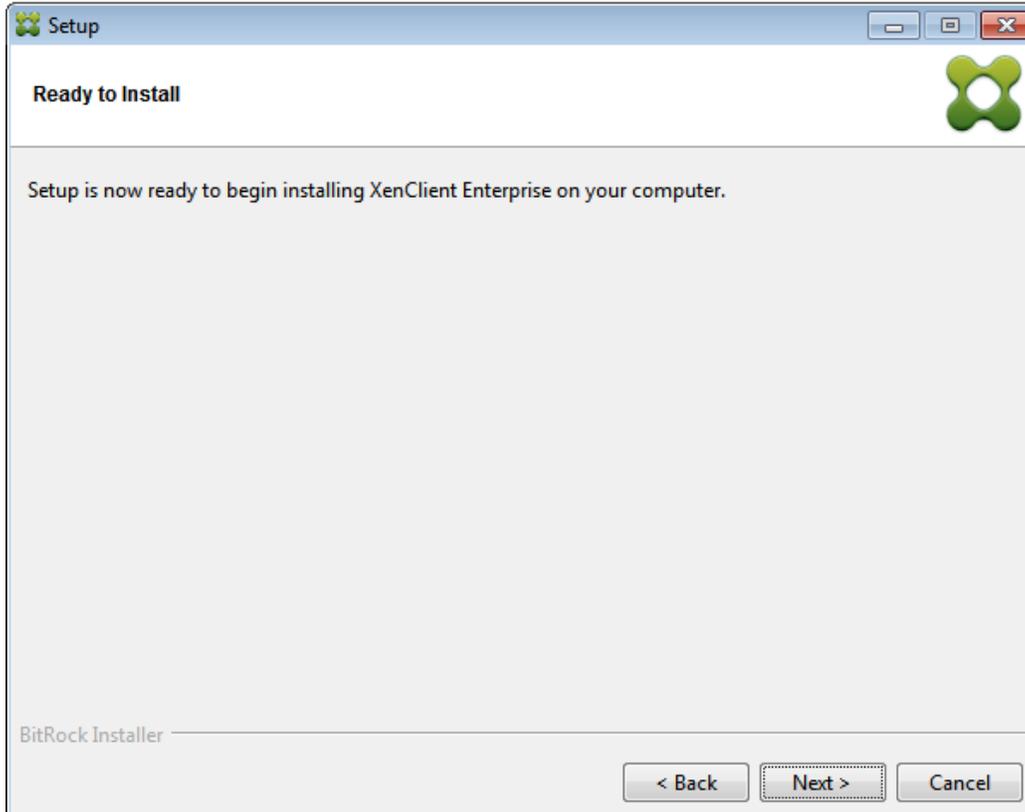
 このコンピューターが Engine のインストール前にバックアップされていることを確認してから、インストールの種類を選択してください。

9. **【次へ】** をクリックします。リカバリパーティションの画面が表示されます。リカバリパーティションとは、ディスクに作成される個別の領域で、Engine の完全なコピーが配置されます。パーティションを作成するには、**【XenClient Enterprise のリカバリパーティションを作成する】** チェックボックスをオンにします。パーティションを作成できない場合でも、インストールの続行を選択できます。

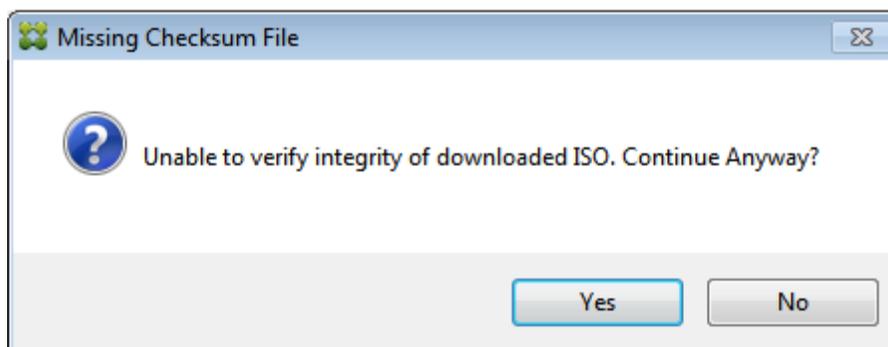


-  リカバリパーティションには、約 2GB のスペースが必要です。コンピューターに、少なくとも 2 つの空きパーティションが必要です。空きパーティションがない場合は、リカバリパーティションを作成できず、プロセスは中止されます。使用可能なディスクパーティションの数を確認するには、Windows のディスクマネージャーを使用してください。

10. [次へ] をクリックします。 [インストールの開始] 画面が表示されます。

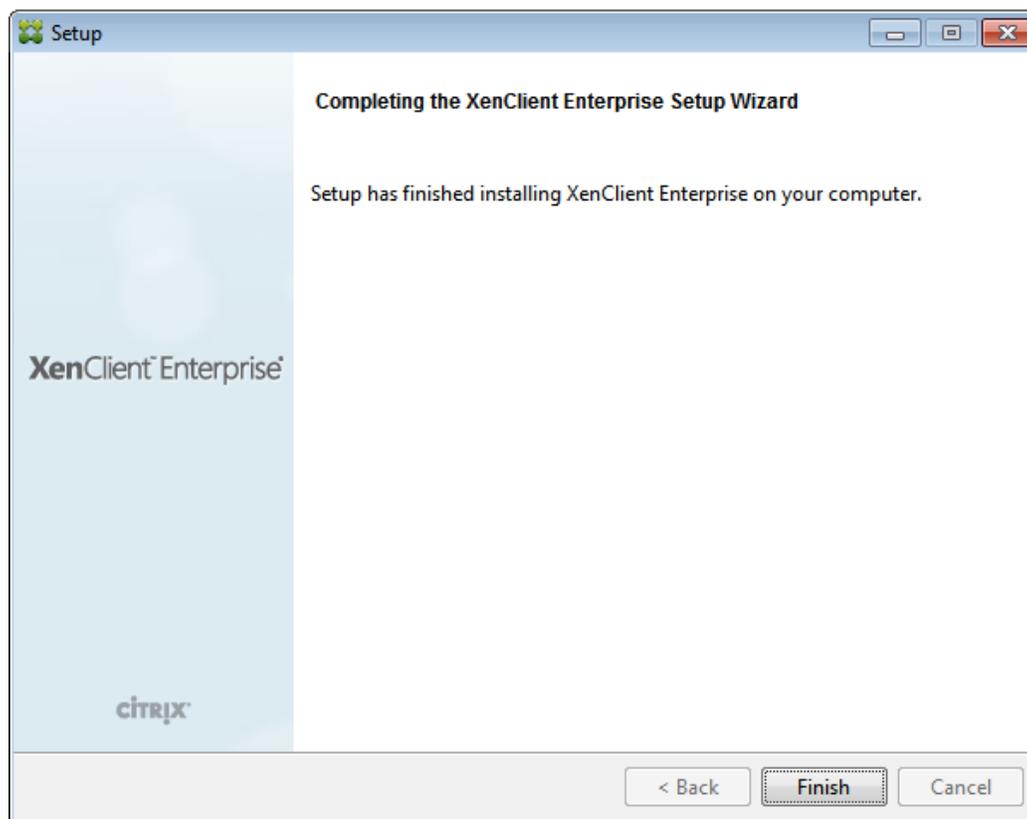


11. [インストールの開始] 画面で、[次へ] をクリックしてインストールを開始します。以前の ISO イメージが存在している場合は、その置き換えを求めるダイアログボックスが表示されます。



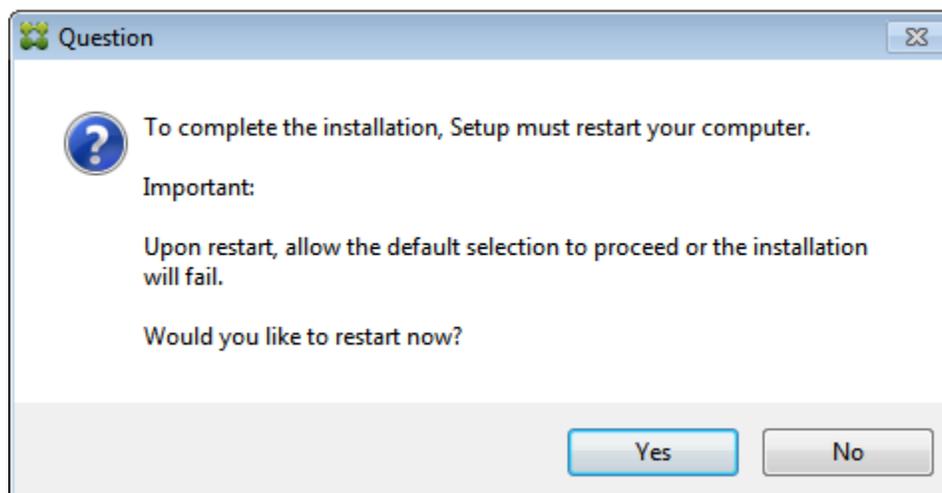
-  [はい] をクリックすると、ISO の MD5 ハッシュファイルがない場合は、警告メッセージが表示されます。

インストールが完了すると、確認画面が表示されます。



12. [完了] をクリックして、インストールを完了します。

13. コンピューターを再起動して、インストールを完了させる必要があります。



コマンドラインを使用したインストール

コマンドラインからインストーラーを開始するときは、次のインストールオプションを使用してください。

```
XenClientEnterpriseInstall[VERSION].exe
```

これらのコマンドの構文は、次のとおりです。

```
XenClientEnterpriseInstall[VERSION].exe --<option><option>
```

たとえば、インストーラーを起動し、「リカバリパーティションを作成できない場合でも続行する」には、次のように入力します。

```
XenClientEnterpriseInstall_4.1.0.12834-pre12067-1457.exe -  
continue_without_partition true
```

 無人インストールの場合（**client.ini** と **dom0.iso** がディスクに配置される）、次のコマンド文字列を使用します（これらのオプションの説明は以下の表を参照）。

```
--clientconfig c:\Citrix\boot\client.ini -isoChoice --filePath  
c:\ Citrix\boot\dom0.iso --mode unattended
```

以下の表にコマンドラインインストーラーに関連付けられたオプションの説明を示します。

オプション	説明	デフォルト値
--help	有効なオプションを表示します。	
--version	製品情報を表示します。	
--clientconfig <client config file>	インストールオプションファイルにパラメーターを設定します。このファイルを使用すると、多数のパラメーターを指定できます（.properties ファイルと同様）。たとえば、client.ini の場合は、次のようになります。 isoChoice=filePath filePath=C:\MyIsoFiles\MyIso.iso このファイルは、--optionfile コマンドラインフラグを使用してインストーラーに渡すことができます。たとえば、次のようになります。 C:\XenClientEnterpriseInstall_4.1.0.12834.exe --clientconfig C:\Citrix\client.ini	
--noReboot 1	インストールの完了後に、インストーラーによる PC の再起動を防止します。	

--debuglevel <0-4>	デバッグ情報の詳細度です。0~4 を指定します。デフォルトでは、この値は 2 に設定されています。	2
--mode <win32 unattended>	サイレント/無人インストールを示すために使用するインストールモードです。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • win32 (デフォルト値) : 通常の Windows インストーラーが実行されていることを示します。 • unattended: インストールモードを示します。 	win32
--unattendedmodeui <none minimal minimalWithDialogs>	無人モードの UI です。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • None – 無人インストールの実行時に進行状況バーを表示しません。デフォルトでは、この値は none に設定されています。 • Minimal – この値を指定すると、無人インストール中にグラフィカルな進行状況バーが表示されます。 • minimalWithDialogs – このモードでは、Minimal モードの進行状況バーに加えて、ポップアップメッセージが表示されます。 このコマンドを--mode と組み合わせると、サイレント/無人インストールをサポートするように切り替えられます。次に例を示します。 <pre>C:\ XenClientEnterpriseInstall_4.1.0.12834.exe --mode unattended C:\ XenClientEnterpriseInstall_4.1.0.12834.exe --mode unattended -unattendedmodeui minimal</pre>	なし
--debugtrace <debugtrace>	デバッグファイル名。	
--isoChoice	ISO ファイルの提供方法を以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • filePath、httpPath たとえば、filePath を指定するには、次のようにします。 <pre>XenClientEnterpriseInstall_4.1.0.12834.exe --isoChoice filePath --filePath C:\MyIsoFiles\MyIso.iso</pre> たとえば、httpPath を指定するには、次のようにします。 <pre>XenClientEnterpriseInstall_4.1.0.1</pre>	

	2834.exe --isoChoice httpPath -- httpPath http://myserver/MyIsoFiles/MyIso.i so	
--filePath <filePath>	ローカルディスクの ISO ファイルのファイルパスです。	
--httpPath <httpPath>	ISO ファイルの HTTP ファイルパスです。	
--create_recovery_partition <True False>	XenClient Enterprise のリカバリパーティションを作成します。	True
--continue_without_partition < True False >	リカバリパーティションを作成できない場合でも続行します。  このオプションは、大規模なシステムでインストールを配布する際に役立ちます。十分なディスクスペースがあるシステムではインストールを続行し、パーティションがインストールに対応できないサイズのシステムの場合にはインストールを停止します。	False

-  コマンドラインのインストールオプションを表示するには、--help コマンドを使用してインストーラーを起動します。次のように入力します。

XenClientEnterpriseInstall[VERSION].exe --help